



A 群 β 溶血性レンサ球菌により引き起こされる咽喉感染のより良い診断検査

KEYWORDS// A 群 β 溶血性レンサ球菌, 咽喉感染, 診断検査

レンサ球菌性咽頭炎は、主に A 群 β 溶血性レンサ球菌 (GABHS) が原因の口腔咽頭や鼻咽頭の急性感染である。この感染は急性リウマチ熱および急性レンサ球菌感染後糸球体腎炎の原因になり、この菌を確実に検出することが重要である。しかし、咽喉培養には結果に影響する因子の存在や偽陽性や偽陰性の問題がある。著者らは、咽喉培養および ASO 抗体力価を基準試験として、咽喉痛患者における迅速抗原診断試験 (RADT) の診断価値および GABHS により起こる咽喉感染の治療によく使用される抗生物質の効力を評価した。検討では、4~15 歳の患者 355 人を対象に 4 つの臨床像 (熱履歴、咳、扁桃滲出液、前頸リンパ節腫

症) を記録し、咽喉培養とともに RADT を実施した。GABHS 陽性率は咽喉培養 19%、RADT 24% であった。咽喉培養を基準にすると、RADT は感度 91%、特異度 91%、陽性的中率 73%、陰性的中率 98% であったが、3 あるいは 4 つの臨床像を有する患者の感度は 97% であった。ASO 抗体力価を基準にすると、RADT と咽喉培養には関係は見いだせなかった。Zithromax は最も処方率が高く、高感受性を示した。

(Abu-Sabaah AH, Ghazi HO: Better diagnosis and treatment of throat infections caused by group A beta-haemolytic streptococci. Brit J Biomed Sci 63: 155-158, 2006)

(埼玉県立大学短期大学部 鈴木優治)